

森林やまがた

No.85

2004 4月

目次

平成16年度森林課の主要施策……………2	センタートピックス
中核組合が誕生	平成16年度の研究開発と研修計画……………8
森林組合改革を推進……………4	現地ルポ
緑の強調期間と緑の募金について……………5	山形県木炭品評会・炭焼き体験会の開催……………9
緑の少年団活動報告	森林ボランティア活動の予定……………10
神室少年自然の家にとまっでの思い出……………6	山形県の古木・名木……………11
友達いっぱいできたキャンプ……………6	公共木造施設……………11
酒田の友だちとの楽しい思い出……………6	山火事予防活動……………12
たくさんの体験ありがとう……………6	
むらづくり維新森林・山村・都市共生事業……………7	

(表紙写真は、湯殿山ホテル近辺に国有林が設定した月山ブナ林施業公園内のブナ三次林)

「の森構想」の推進

はじめに

森林は、古来県民生活と深い関わりを持ち、木材の生産をはじめ、災害の防止、良質な水資源の安定的な供給等を通じて、安全で豊かな生活環境の形成に寄与するなど、極めて重要な役割を果たしています。特に近年は、地球温暖化を抑制するための二酸化炭素の吸収源として、その役割が大きく期待されています。

このため、国においては、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に向けて、平成十

四年に「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」及び「バイオマス・

ニッポン総合戦略」を策定し、健全な森林の整備と木質資源の活用を推進することとしております。

しかしながら、木材価格の低迷等によって、間伐等

の必要な森林の手入れや伐採跡地の植林が停滞していることに加え、松くい虫等による枯損被害が里山地域に広がるなど、森林のもつ多面的な機能が低下することが懸念されています。

一方、平成十四年に開催された第五十三回全国植樹祭を契機として、森林に積極的に関わりながら、身をもって森林づくりに参画したいとする気運が着実に高まってきています。

こうした「県民参加の森林づくり運動」をさらに発展させるために、参加と連携と協働のもとに公益的な機能を持続的に発揮させながら、県民全体で支える森林づくりを基本理念とする「やまがた公益の森構想」を平成十五年度に策定いたしました。

この構想を、平成十三～二十二年までの十年間の整備目標を定めた『山形県森林整備長期計画』の推進プロジェクトと位置づけ、「豊かな暮らしを広げる森林づくり」及び「循環型社会を担う森林づくり」を柱として、総合的かつ計画的な森林・林業・木材産業の振興施策を展開いたします。

一 豊かな暮らしを広げる森林づくり
森林の持つ多面的な機能を高度に発揮させるため、流域特性に応じた持

続可能な林業経営の推進を図ります。

また、ボランティアや企業による森林づくり、里山における森林オーナー制の推進など、県民の参加・連携・協働に基づく「やまがた公益の森構想」を推進し、県民全体で森林を支える仕組みの構築を図ってまいります。さらには、畑地等を活用した山菜・きのこの等の特用林産物の生産振興と消費の拡大を図り、豊かな山村づくりに努めていきます。

(1) 多様な森林の整備・保全

① 地球温暖化防止に向けた多様な森林の整備を推進するため、造林事業、治山事業、林道事業等の林務公事業を計画的に実施するとともに、水源の森づくり事業や絆の森整備事業等を実施します。

② 松くい虫被害対策を推進するため、森林病害虫防除事業、松くい虫被害対策推進事業、里山景観創成事業等を重点的に実施するとともに、出羽庄内公益の森整備事業及び松林景観保全整備事業等を実施します。

③ 森林の適正な保全・管理を推進するため、森林情報の電子データ化と一元管理をめざす森林GIS等整備推進事業を新たに導入するとともに、所有界の確定などの準備行為に對する森林整備地域活動支援事業、

保安林整備管理事業、森林保全管理事業等を実施します。

(2) やまがた公益の森構想の推進

① 「やまがた公益の森構想」を推進するため、県民の参加・連携・協働を図る具体的な組織として「公益の森づくり支援センター(仮称)」を設立・運営するなど、やまがた公益の森推進事業を新たに実施します。

② 県民参加の森林づくりを推進するため、植樹祭と育樹祭を統合・発展させた「森の感謝祭」を新たに開催するほか、森林オーナー制の推進、企業との森づくりなど、県民参加の森林づくり推進事業を実施します。

③ 森林空間の総合利用を推進するため、「県民の森」、「眺海の森」、「源流の森」、「遊学の森」の四つの県民の森における案内人制度の充実及び利用の拡大等を図るための管理整備事業を実施します。

(3) 特用林産物の生産振興と山村地域の活性化

① 特用林産物の生産振興を推進するため、新たに畑地等を活用した山菜・きのこの生産の新規開拓や規模拡大等に支援を行うほか、消費拡大を図るための料理講習会を開催するなど、山の恵み地産地消推進事業を重点的に実施します。

「やまがた公益



②山村域の活性化を推進するため、特

用林産物の生

産・加工施設

の整備、県産

木材を使用し

た木造公共施

設の整備等に

助成を行う林

業・木材産業

構造改革事業

を実施します。

(4)森林管理

技術の開

発と普及

指導

①森林管理技術の開発を推進するため、新たに、スギ人工林の長期循環管理技術の開発、花粉症低減のためのスギ優良品種の開発、里山を利用したきのこ通年発生技術の確立と体系化、の三課題を加えた試験・研究事業を実施します。

②森林管理技術の普及指導を推進するため、林業の担い手や山村地域のリーダー等を対象にした普及指導事業、及び研修事業を実施します。

二 循環型社会を担う森林づくり
環境への負荷が少なく、再生産可

能な県産木材を利活用することは、資源循環型社会の形成や地球温暖化を抑制するうえで必要不可欠なことです。

このため、県産木材の一層の需要拡大を図るとともに、林業の担い手の育成や生産基盤の整備を推進します。

(1)県産木材の需要拡大

①県産木材の需要拡大を推進するため、木材・住宅関連業者等で構成する「県産木材を使用した家づくりネットワーク」による新築住宅の内覧会等に支援を行うやまがたの木で

家づくり推進事業、及び木材相談コーナーの開設等を行う木材産業振興対策事業等を実施します。

②また、他部局と連携しながら、「山形の家づくり利子補給制度」を広く周知し、県産木材による家づくりを推進するとともに、公共建築物の木造化や内装の木質化、間伐材の土木用資材への利用、林業まつり等のイベントを通して県産木材の利用拡大を図ります。

(2)県産木材の生産振興と安定供給体制の整備

①間伐の推進及び間伐材の利用拡大を図るため、間伐材の市場への搬出促進と付加価値の高い葉付き乾燥

材の生産拡大等に支援を行う資源循環型森林施業団地化モデル事業をはじめ、緊急間伐実施総合対策事業、及び市町村総合交付金による間伐実施推進事業を実施します。

②県産産木材の安定供給体制の整備を図るため、経営支援のための資金を無利子で貸し付ける林業・木材産業改善資金貸付事業、及び木材産業等高度化推進対策資金貸付事業等を実施します。

(3)林業生産基盤等の整備

①林業生産基盤等の整備を推進するため、間伐等を緊急に必要とする森林地域を対象とした林道の開設・改良を行う林道事業、及び作業道等の林内路網整備を行う造林事業等を実施します。また、高性能林業機械の導入等を図ります。

(4)森林管理・経営の担い手の育成と雇用の創出

①林業の担い手の育成・確保を図るため、林業労働力確保支援センター等と連携しながら、林業事業者の経営合理化や雇用の改善、及び蜂刺傷害対策の拡充強化等による労働安全衛生を確保するための林業担い手育成強化対策事業等を実施します。

②また、森林整備の中核的な担い手である森林組合の基盤強化を図る

ため、「森林組合改革プラン」に基づき、森林組合経営改革推進事業等を実施します。

③森林整備による雇用の創出を図るため、里山景観創成事業等を実施するとともに、森林組合系統が取り組む「緑の雇用担い手育成対策事業」への支援・協力をを行います。

(5)木質バイオマス資源の有効利用の促進

①木質バイオマス資源の有効利用を促進するため、木質バイオマス資源活用計画に基づき、ペレットを使用するストーブやボイラーの普及拡大等を行う木質バイオマス推進事業等を実施します。

三 林務公共事業の推進

投資の重点化、コストの縮減等を図りながら、林務公共事業を計画的かつ効果的に実施します。

①多面的機能発揮のための造林事業
②森林管理推進のための林道事業
③公益的機能確保のための治山事業
④効率的な生産体制確立のための林業・木材産業構造改革事業

おわりに

これら森林関係の諸施策の実施にあたり、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

〔山形県森林課〕

中核組合が誕生 森林組合改革を推進

健全で自立的な経営の確立をめざして

森林組合をめぐる情勢

近年の森林・林業を取り巻く厳しい情勢から、森林組合では森林整備事業等の受注量や原木・製材品等の販売等が著しく減少しており、平成十四年度の事業総取扱高はピーク時（平成八年度）の約六十六％の四十三億八千万円となつており、森林組合への加入者の減少も続いております。

また、木材価格の低迷等に起因する林業経営意欲の減退や森林所有者の不在村化・高齢化・減少化など、森林組合を巡る状況は一層厳しくなっております。

こうした中、地域の森林整備の中核的担い手としての役割を果たしてきた森林組合が、今後ともその役割を十分に果たし、経営を持続させていくためには、従来にも増して事業の効率化・低コスト化に努め、健全な自立的経営の確立が急務となっております。

さらに、新たなニーズにこたえうる効率的・安定的な事業の実施と組織

体の編成が求められております。

中核組合について

このような情勢を踏まえ、県では、森林組合が取り組んでいる改革をより一層推進し、合併等による経営基盤の強化と業務執行体制の充実強化を図るため、健全な財務基盤と的確な経営判断等に基づいた安定的かつ効率的な事業運営により、厳しい経営環境下においても一定の事業利益を確保しつつ、自立的経営を実現できる森林組合を中核組合として位置付け、育成していくことにしております。

このたび、山形地方森林組合、西村山地方森林組合、北村山森林組合、最上広域森林組合、米沢地方森林組合、西置賜ふるさと森林組合、小国町森林組合、出羽庄内森林組合、飽海地方森林組合の九つの組合が中核組合として知事から認定されました。今後、県では、これら中核組合の経営基盤の拡充強化を図りながら、的確で効率的な業務執行体制が構築されるよう、森林組合改革を支援し

ていきます。

また、中核組合として認定された森林組合が、申請した事業計画及び単位組合ごとに策定した森林組合改革プランを確実に実行できるよう、指導・助言していきます。

森林組合系統の合併等の取組が着実に実施され、森林組合改革が達成されることを期待するところです。

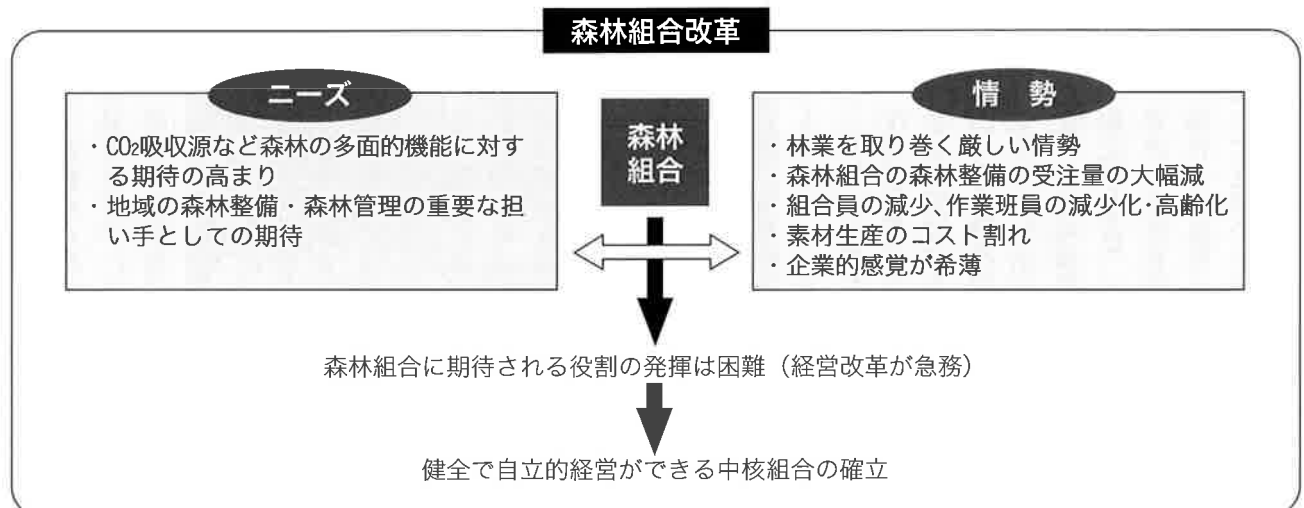
〔県森林課〕

○中核組合の基準

- ① 組織体制に関する基準
 - ・常勤理事が1名以上配置されていること
 - ・常勤役員が7名以上配置されていること
- ② 事業実施に関する基準
 - ・累積欠損金が生じていないこと
 - ・払込済出資金が4千万円以上であること
 - ・事業管理費が事業総利益の範囲内であること

○中核組合の認定

県は、基準を満たす森林組合の事業計画の申請に基づき、森林組合改革委員会の意見を踏まえ、中核組合として認定する。



緑化強調期間をしよう

森林は国土の保全、水源のかん養、木材の生産などの重要な働きがあり、人類共通のかけがえない財産ですが、近年は、地球温暖化防止、生物多様性の保全とともに環境教育の場や、心身の癒しの場など新たな働きが注目されています。

山形県では平成十六年四月二十三日から五月三十一日までを緑化強調期間とし、「緑の募金」や「山火事防止」の啓発等に取り組みこととしておりますが、この他にも緑化に関する様々な普及啓発活動が予定されておりあります。

この機会に、森林について、もう一度見つめ直し、一人一人ができることから緑化活動を実践していただければと思います。

ここで、緑化強調期間における主な行事等を御紹介いたします。

◎「県民の森」等のオープニングイベント

(詳細はお問い合わせください。)

- ・ 県民の森 四月二十九日
023-688-6633 みどり推進機構
- ・ 眺海の森 四月二十九日
0234-62-3323 森林学習展示館

・ 源流の森 五月九日

023-688-6633 みどり推進機構

・ 遊学の森(通年オープン)

023-64-3305 木もれび館

◎緑のプレゼント

・ 山形市役所 四月二十三日

・ 天童市わくわくランド

・ 長井市市民文化会館 四月二十五日

・ 米沢市伝国の杜 四月二十八日

・ 川西町フレンドリープラザ 四月三十日

・ 山辺町役場 四月上旬

・ 五月下旬

(詳細は最寄りの市町村にお問い合わせください。)



緑のプレゼント

緑の募金をしよう

緑の募金は、森林の整備や緑化の推進等を目的として、平成七年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき実施されているものです。

皆様から寄せられた募金は、法律に基づいた「運営協議会」において審議され、その活用が決定されますが、具体的には、身近な森林の整備、公園や学校の環境緑化、また、緑の少年団の育成等に使用されています。平成十五年度は、約三〇〇〇万円の募金が寄せられ、次のとおり活用



街頭募金

されました。

・ 森林の整備費 約 二〇〇万円

・ 緑化の推進費 約二〇〇〇万円

・ 募金推進費 約 五五〇万円

(募金活動を行うために必要な経費です。)

・ 国土緑化推進機構への交付金 約 一四〇万円

(緑の募金の全国団体で、大規模な緑化事業等に充てられるものです。)



緑の募金を活用した森林整備(植樹活動)

今年度も緑化強調期間の四月二十三日から五月三十一日までを中心として、「緑の募金(春募金)」を実施しますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。(県森林課)

最上地域交流研修会と 酒田市緑の少年団交流会の思い出

金山町立明安小学校



神室少年自然の家に
とまつての思い出
五年 正野 雄士

ぼくは、神室少年自然の家にまつての思い出は、一つ目は、いろいろな町の緑の少年団の人と、たくさん遊んだことです。ぼくは一番遊んだのは、北しん小学校のゆうた君たちです。一つ年上だったけどたのしく遊ぶことができました。

二つ目は、キャンプファイヤーです。ぼくは、火をつける係で、なかなか火がつかずあせりました。ほかの人が火をつけてしまつて髪の毛がやけそうになりました。でもその夜は、とても楽しかったです。

二日目、ぼくが楽しみにしていた川遊びができませんでした。そのかわり、木に文字をかくという物をつくりました。ぼくは「ナルト」をかきました。とてもよくできて、今部屋にかざっています。

お別れの時、ぼくは少し別れるのは悲しかったです。でもとてもいい思い出をつくることができました。



友達いっぱいできた
キャンプ
五年 丹 彰裕

ぼくは、キャンプにいったとき少し不満もありました。明安の友達ともいっしょだけど、もつと友達が多かったので少し話しかけてみました。ぼくは、それで北辰小学校の友達の人と、一番楽しくすごせたのは、キャンプファイヤーとねるときです。キャンプファイヤーでは、その小学校ごとの出し物でいろいろなものがありました。クイズか、その小学校の校歌などです。そして、みんなでキャンプファイヤーの前で歌を歌いました。そして、おふろに入り、みんなふとんしきをして、ねるじゅんびをしたら、ふとんに入りました。いろいろな話をしてねました。

2日目は工作などを作りました。ぼくはサメの絵がかいてあるかざりを作りました。そして、みんなでお別れ会をして、みんな帰りました。とてもおもしろいキャンプでした。またしたいです。

またこのよう
なことがあつ
たら、参加し
たいと思いま
す。



酒田の友だちとの
楽しい思い出
六年 阿部 瑞穂

八月八日、酒田市緑の少年団との交流会の日です。私は、この日がとても楽しみでした。五年生の時も、緑の少年団に入ったけど、酒田市との交流会には行けなかったからです。

私が特に楽しみにしていたのはそば打ち体験です。谷口がっこそばの少し小さな部屋を借りていて、私は、酒田の中学生の人と作りました。がっこそばのおばさんが、「上手だねえ。」と言ってくれたので、うれしかったです。めんを切るときは、太さがばらばらになってしまったけど、楽しかったです。時間をかけて作ったそばの味は最高でした。また作りたいなあと思いました。

午後は、木工教室が木もれび館でありました。自然の物を使って、伝言板を作りました。どんぐりや枝を付けたら、小さな森のようでした。フォトフレームにもできそうだったし、便利なものを作れてよかったです。

この日は、ふだんできない体験もできて、とても楽しい思い出が作れたのでよかったです。



たくさんの体験
ありがとう
六年 高橋 美耶

八月二十日、二十一日に、緑の少年団のキャンプに参加してよかったです。その理由は二つあります。

一つ目は、友達がたくさんできたことです。友達になれない人もいたけど、女子のほとんどの人と友達になれました。

二つ目は、工夫して楽しく遊べたことです。当日は雨が降つて予定されていた野外すい飯の活動や、スコアオリエンテーリングが出来ませんでした。でもそのかわり神室少年自然の家の中でたくさんのゲームをすることができました。

他にも、酒田との交流会の活動があつて、いろいろな体験ができました。特に、登山はめつたに出来ないのが貴重な体験になりました。登山で山の頂上についたときは、金山の風景が見れました。すぐききれいでした。

これから緑の少年団の活動することはなくなると思いますが、できることがあつたら、積極的に参加していきたいと思ひます。

桂林コミュニティ施設落成

はじめに

平成十六年二月二十九日、西村山郡西川町大字岩根沢地内に地域材をふんだんに使用した桂林コミュニティ施設が落成しましたので、施設の概要を紹介します。

地区の概要

桂林コミュニティ施設が建設された西川町桂林地区は、町の中心部から北西方向に約六キロメートルの月



桂林コミュニティ施設

山山麓標高約四百メートルに位置し、現在、世帯数は二十一、人口は七十五人となっています。

施設の概要

桂林コミュニティ施設は、地域活動及び山村と都市の交流の拠点施設として、西川町が、平成十四年度むらづくり維新森林・山村・都市共生事業で、事業費三千万円（補助率二分の一）を投じ建設したものです。

構造は木造平屋建てで、建築面積は百二十四・二一平方メートル、延床面積は九十六・四七平方メートルです。

間取りは、和室二間（六畳間、八畳間）、調理室、玄関ホール、通路、男女便所他です。

特徴は、木材をふんだんに使用している点で、構造材はもろりん、内外装材として町内産の「西山杉」をふんだんに使用しています。

木材使用量は三十八・五立方メートル、単位面積当たりの木材使用量は約〇・四立方メートルとなっています。このうち、「西山杉」の使用量は

は、三十七立方メートルで、全木材使用量の約九十六パーセントを占めています。

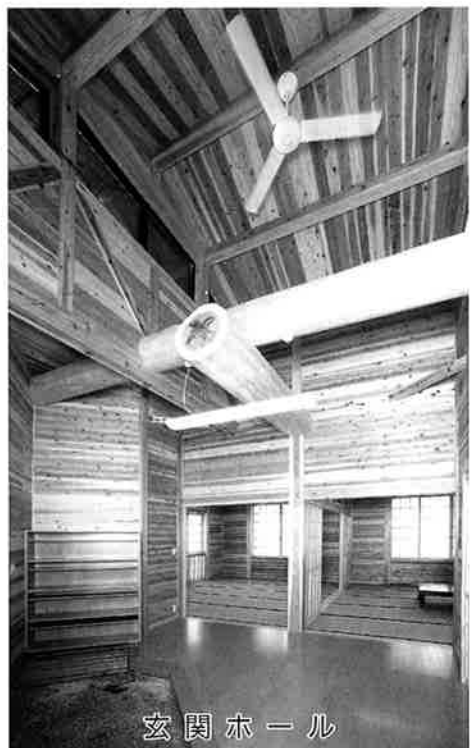
利用及び維持管理計画

町では、この施設を地域の研修集會センターとして活用するとともに、木造建築物のシンボルと位置づけ、利用者から木のぬくもりや「西山杉」の良さを体感してもらい、木材の需要拡大や地場産業の振興に役立てたいと考えています。

また、施設の維持管理は、桂林町内会に委託する計画です。

桂林地区では、本施設の完成により、地域住民のコミュニケーションを一層高めるとともに、地域文化の伝承や地域資源活用を研究する基盤施設として、大いに活用したいと考えています。

県では、平成十五年度事業の睦合コミュニティ施設、平成十六年度計画の海味コミュニティ施設と併せ地域活性化の拠点として活用されるよう期待します。



玄関ホール



和室

問合せ先

西川町農林課林政係

〔村山総合支庁森林整備課〕

平成16年度研究開発課題

1. 森林環境の維持・増進技術の確立

(外):外部資金共同研究

庄内海岸林における主要樹種による復元・管理技術の確立(県単)	H15~H19
産業用無人ヘリコプターによる松くい虫予防散布試験(外部資金)	H16
マツザイセンチュウ病抵抗性個体の選抜と採種園造成(林木育種事業)	H7~
ナラ類枯死木のエコヒュームによる伐倒駆除被覆処理に関する研究(外)	H16
生物多様性保全に配慮した里山林の評価手法と管理技術に関する調査(国庫)	H16~H20
スギ人工林の長期循環管理技術の開発(県単)	H16~H20
多雪環境下のスギ・落葉混交林における動態把握のためのデータセットの作成(外)	H15~H17
野性獣被害の軽減に資する新たな森林区分を踏まえた森林整備の手法に関する調査(外)	H14~H16

2. 多様なニーズに対応する林木及び特用林産物優良品種の開発

花粉症低減のためのスギ優良品種の開発(県単)	H16~H20
里山を利用したきのご通年発生技術の確立と体系化	H16~H20
ー里山における多品目きのご通年発生技術の確立ー(県単)	

3. 地域活性化をめざした特用林産物生産体系の確立

里山を利用したきのご通年発生技術の確立と体系化	H16~H20
ー里山における多品目きのご通年発生技術の確立ー(国庫)	

4. 自然活力を活用した特用林産物の生産技術の確立

山菜の安定生産技術の確立と高品質系統の作出(県単)	H15~H19
---------------------------	---------

5. 県産スギ材の用途拡大技術の開発

県産スギ材の材質特性に関する調査研究(県単)	H15~H17
------------------------	---------

◆「森林環境の維持・増進技術の確立」に関するは、

一 平成十六年度からの新たな取り組み

研究開発

①森林を松くい虫やナラ枯被害から守るため、自然環境に対する負荷を最小限に抑えながら、効果的に防除するための薬剤の使用

②持続可能な里山林の維持を図るため、里山の健全性の維持と森林における生物相の保全を考えた、新たな森林管理方法を開発します。

③スギ人工林の多面的機能を長期に渡り維持・発揮させるため、立地環境や立木の形質に合わせた最適な施業方法を開発します。

◆「多様なニーズに対応する林木及び特用林産物優良品種の開発」と「地域活性化をめざした特用林産物生産体系の確立」に関するは、

◆「自然活力を活用した特用林産物の生産技術の確立」に関しては、中山間地域の活性化を図るため、ネマガリタケの安定生産技術の開発を行うとともに、ゼンマイ等山菜の優良系統の選抜を行います。

◆「森林環境の維持・増進技術の確立」に関しては、

①庄内海岸林被害マツ林の早期復旧のため、多様で持続可能な海岸林への早期誘導技術を開発するとともに、マツザイセンチュウ病抵抗性苗木の養成技術の開発を行います。

②森林の機能の維持増進を図るため、人工一斉林から針広混交林への誘導技術を開発するためのデータの集積を行います。

二 継続課題

◆「森林環境の維持・増進技術の確立」に関しては、

①庄内海岸林被害マツ林の早期復旧のため、多様で持続可能な海岸林への早期誘導技術を開発するとともに、マツザイセンチュウ病抵抗性苗木の養成技術の開発を行います。

②森林の機能の維持増進を図るため、人工一斉林から針広混交林への誘導技術を開発するためのデータの集積を行います。

◆「県産スギ材の用途拡大技術の開発」に関しては、

県産スギ材の利用拡大を図るため、県産スギ材の横架材としての強度特性、黒芯材等の材質特性を把握します。

受託事業

地球温暖化対策の基礎資料となる森林の炭素固定量把握のための調査と、酸性雨影響の調査(森林総研受託)を継続します。

研修・講習計画

表のとおり、年間を通じ、林業従事者・後継者、教職員、一般県民、児童生徒等を対象として、各種研修会や講習会を計画しています。

平成16年度主要研修・講習計画

名 称	予定時期	募集人員
車両系建設機械	6/16~6/24	20名
林業教室(林業機械)	7月	20名
林業教室(特用林産)	10月	10名
林業士・指導林家研修	8月	30名
森の案内人養成研修	8月.9月	30名
教職員等森林環境教育研修	6月.8月.10月	20名
森林講座・試験研究成果報告会	11月	120名
夏休み子ども科学教室	7月	15名
愉快的山づくり講座	7月.9月.10月	20名

〔森林研究研修センター〕

活力ある炭焼き・里山林を目指して

近年、木炭は、単に燃料としてはなく、土壌改良、吸湿・防臭、水質浄化、電磁波遮断など生活に密接に係わる「地球環境に優しい素材」として注目を浴びています。また、炭焼きは里山における森林整備と資源の循環利用に役立つものとしても期待されています。この「木炭」の生産技術の向上、

木炭と里山林との係わりや木炭の良さなどの理解を得るため、去る二月九日～十一日に、山形県木炭文化協議会（会長 菅貞雄）の主催・共催により、木炭品評会と炭焼き体験会が開催されました。

第十回山形県木炭品評会

平成六年度から開催されている品評会も今年で十回目になりました。

西置賜地域のみならず、村山、庄内地域から三十六点の出品があり、二月九日の審査会において、白炭（丸物・割物）、黒炭（丸物・割物）、木炭一般、創作の部ごとに審査規程に基づき形状や品質、独創性などを厳正に審査した結果、県知事賞を含めて九点の入賞作品が選ばれました。表彰式と展示会は、翌十日に米沢市内の伝国の杜で開催された「置賜の森を考えるシンポジウム」の会場に於いて盛大に行われました。受賞された皆さんおめでとうございます。

炭焼き体験会

二月十一日、冬の置賜には珍しく快晴に恵まれ、炭焼き体験会が白鷹町ふるさと森林公園で行われました。

当日は、

置賜、村山地域から十一名の参加があり、講師に飯豊町木炭生産組合長の渡部岩次さん、林業士の海老名和好さんを迎えて、炭材の採取と炭焼の体験を行いました。

午前中は、里山林において炭の材料となるコナラの伐採から積み込みまでの作業を行いました。見た目よりも高さがあり、重く硬いナラの木をチェーンソーではなく、のこぎりをういて四苦八苦しながら伐倒・玉切りし、ロープや素手で抱えて運び出



最優秀賞の受賞作品



最優秀賞の樋口さん

しましたが、参加者は、皆とても意欲的で、白炭釜での炭焼き一回分以上の炭材を搬出できました。午後は、炭焼き小屋において、白炭・黒炭の窯出しと木酢液の採取の作業を行いました。

白炭窯では、千℃を超す赤熱の窯から、「熱い」、「怖い」などと声を上げながら、真っ赤な炭を引き出し、消し粉をかけて消化していました。また、黒炭窯では、頭をぶつけ真っ黒になりながら、窯から黒炭を出していました。

参加者は、炭焼き作業の大変さと里山林の手入れの重要性を感じていたようです。

〔置賜総合支庁西置賜森林整備課〕



炭焼き体験の様子

第10回山形県木炭品評会 審査結果一覧表

賞	部門	部	氏名	市町村
最優秀賞	山形県知事賞	黒炭・白炭	白炭丸物 樋口勝典	飯豊町
優秀賞	山形県森林組合連合会長賞	黒炭・白炭	黒炭丸物 阿部勇志	櫛引町
	西置賜ふるさと森林組合長賞	黒炭・白炭	白炭丸物 草刈広一	小国町
	西置賜林業振興協議会長賞	黒炭・白炭	白炭割物 渡部利男	飯豊町
優良賞	山形県木炭文化協議会長賞	黒炭・白炭	黒炭割物 川合義春	白鷹町
		黒炭・白炭	白炭丸物 大石昭吾	飯豊町
		黒炭・白炭	白炭割物 舟山清一	飯豊町
		創作	創作 船見里	鶴岡市
奨励賞	山形県木炭文化協議会長賞	創作	創作 船見捷士	鶴岡市

森づくりに参加してみませんか

森林ボランティア活動の予定

▼はじめに

近年、地球温暖化防止など環境問題への関心が高まるなか、自主的に森づくりに参加する森林ボランティア活動が活発化してきています。

今年三月に策定された「やまがた公益の森構想」では、「県民各層による森づくりの促進」を重点施策の一つに位置づけ、具体的な取組みとして、今年設立されるやまがた公益の森づくり支援センター（仮称）において、ボランティア活動のための技術的な指導や条件整備等に対する支援、人材の育成・確保を図るとともに、森づくりに関する様々な情報を提供していくこととしています。

今回紹介する森林ボランティア活動の予定についても、ホームページ等で広くお知らせしていくこととしておりますので、多くの県民の皆様から参加していただき、森づくり運動の輪を広げていきたいと考えております。

〔県森林課〕



平成16年度森林ボランティア活動予定について

区分	事業名 (イベント名)	実施 予定日	実施場所	内 容	実施主体	対 象 者	参加 人数	問合せ先	電話番号
村 山	やまがた森の感謝祭	6月5日	県民の森	植樹、森林整備活動、森林散策、木工クラフト等のイベント	山形県山形市他	一般	1,200	県庁森林課	(023) 630-2529
	福祉植樹祭	12月	東南村山管内	福祉施設への植樹活動	東南村山林業振興協議会	福祉関係者	30	村山総合支庁森林整備課	(023) 621-8285
	緑化活動	4月～11月	未定	植樹や森林整備等の緑化活動	グリーンライフ女性の会	一般	30程度	山形地方森林組合	(023) 644-0053
	北村山地区林業まつり	10月中旬	大石田町	記念植樹、きのこと植菌、自然観察丸太切り競争等のイベント	北村山林業振興協議会 大石田町	一般 緑の少年団	400	村山総合支庁北村山森林整備課	(0237) 55-2121
	西村山地方植樹祭	未定	寒河江市	参加者による植樹活動	西村山地方山林業振興協議会	一般市民	50	村山総合支庁西村山森林整備課	(0237) 86-8111
	桜植樹祭	11月	河北町園	公園への桜の植樹活動	河北町	一般町民	100	河北町農林課	(0237) 73-2111
最 上	海の幸を育む山に緑を(兼)最上地方植樹祭	10月23日	最前森高原	植樹活動、森林教室等	実行委員会	一般 緑の少年団	200	最上総合支庁森林整備課	(0233) 28-7722
	新庄市民の森づくり	7, 9, 11月	新庄市陣峰市民の森	保育活動、遊歩道の整備等	新庄市	一般 小・中学生	300	新庄市農林課	(0233) 22-2111
置 賜	里山林整備ブナ林散策等	4月、5月	米沢市	除伐、きのこ植菌、ブナ林散策、トレッキング等(5回)	森の仲間たち	一般	各30	白壁洋子	(0238) 21-6901
	魚のすみよい森づくりの会活動	5月、8月	米沢市	溪畔林の下刈り 間伐材による溪流整備等	魚のすみよい森づくりの会	一般	各30	米沢地方森林組合	(0238) 38-2981
	安久津八幡山を守る会活動	6月	高畠町	松林の保全・研修会の実施	安久津八幡山を守る会	一般	50	高畠町農林課	(0238) 52-0351
	西置賜地区植樹祭	10月下旬	長井市「古代の丘」	記念植樹 参加者による植樹活動等	西置賜山林業振興協議会 長井市	一般	150	置賜総合支庁西置賜森林整備課	(0238) 88-5111
	里山復活大作戦	6, 8, 11, 1月	長井市「不伐の森」	下刈り、枝打ち、水辺環境整備、トレッキング等(4回)	不伐の森に親しむ会	一般	50～100	布施(事務局)	(0238) 88-4252
22世紀の森づくり事業	8月上 10月中	西置賜管内	ブナ植栽地の下刈り ブナ植栽	22世紀の森づくりの会	一般	各80	西置賜ふるさと森林組合	(0238) 86-2310	
庄 内	光ヶ丘松林整備ボランティア	6月下旬	酒田市光ヶ丘	海岸砂防林の下草刈り つる切り	酒田市庄内総合支庁	一般	150	酒田市農林水産課	(0234) 26-5753
	魚の森づくり	7月上旬	鶴岡市油戸	下刈り、防風柵作成等	魚の森づくりの会	一般	100	会長 佐藤 邦郎	(0235) 33-3894
	砂防林を育てよう	11月中旬	酒田市飯森山	海岸砂防林の枝打ち、下草刈り、つる切り等	酒田市庄内総合支庁	一般	250	酒田市農林水産課	(0234) 26-5753
	西山森林整備ボランティア	12月5日	遊佐町藤崎、菅里	海岸砂防林のつる切り、除伐等	遊佐町砂丘地砂防林環境整備推進協議会	一般	150	会長 佐藤 豊昭	(0234) 75-3189

(注) 内容はあくまでも予定であって、変更される場合があります。実施日や開催内容等詳細については、直接お問い合わせください。



山形県の古木・名木①

山の神社の ブナ林

新庄市関屋

(案内略図)



全国的植生区分で新庄は、冷温帯林の広葉樹林帯に含まれ、太古の昔は、ブナ、コナラ、ミズナラなどが現在の平野部までをおおっており、その間に天然スギがそびえていました。

原始の林相は、後世の開拓によって、まず平野部で消え失せ、やがて山地・原野へのスギ植林などで姿を変えられ、今日の姿になったといわれます。

この山の神社境内のブナは、新庄盆地が開拓される以前のブナを中心とする原生林の一部が残った非常に貴重なもので、昭和五十二年四月一日に市指定天然記念物に指定されています。

〔県森林協会〕



公共木造施設 25

いきいき深山郷 のどか村

白鷹町大字深山

完成年度 平成13年度
 構造 木造平屋
 延床面積 224.05㎡
 問合せ いきいき深山郷 のどか村
 (Tel・Fax 0238-85-0380)

特徴 この施設は、白鷹町内の蚕桑地区山口地内にあった、築160年の茅葺農家を解体・移築したもので、附近には、深山和紙振興研究センター、登り窯を擁した深山工房等があり、ここを拠点に様々な体験を楽しむことができます。



山火事予防運動

「未来へとひきつぐ森です 火の用心」

実施期間 平成16年4月23日～5月31日

春季に集中！

平成十五年の林野火災発生状況は、件数二十五件、焼失面積十八畝、損害額四百四十五万円と、前年に比べ件数は減少しましたが、面積、損害額は増加しました。

火災原因の多くは、火の取り扱いの不注意によるもので、最も多いのが「たき火の延焼」となっています。

月別の発生件数をみると、三月に一件発生し、その後も四月に九件、五月に十三件と春季に集中しており、この三ヶ月間だけで年間発生件数の約九割を占めています。

山火事予防運動の実施

「未来へと ひきつぐ森です 火の用心」を統一標語に、平成十六年四月二十三日から五月三十一日まで、山火事予防運動を実施します。本運動では、県内各地区の関係機関が連携し、広報（新聞）紙を通じての呼びかけ、ポスターの掲示、のぼり旗や横断幕の設置など、山火事防

止の啓発活動を行います。

貴重な森林資源を大切に！

林野火災は瞬時に貴重な資源を奪い、失われた森林を取り戻すには、多くの時間と人手や経費を必要とします。一人一人の心がけで貴重な森林資源を守りましょう。

〔県森林課〕



防災ヘリによる消火活動

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタンツ

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL(023)647-1800
FAX(023)647-1801

印刷所 渡辺活版所 定価 一部一六〇円

森林やまがた4月号 平成16年4月1日発行 通巻第85号

監修 山形県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/10/100520.html>